

2025年度聖マリアンナ医科大学看護専門学校
学校関係者評価委員会概要

学校関係者評価委員長
井上マユミ

1. 第8回学校関係者評価会議の概要

1) 開催日程・場所

- (1) 日時 2026年3月3日(火) 13:00~16:00
- (2) 場所 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 6号教室
- (3) 主催 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 学校評価委員会

2) 委員(名)

委員長 聖マリアンナ医科大学 ナースサポートセンター長 井上マユミ

委員<学校関係者>

高等学校 主幹教諭 1名

<外部講師>

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 非常勤講師

<看護団体関係者>

公益社団法人 川崎市看護協会 会長

<卒業生保証人>

<在校生保証人>

<法人関係者>

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 担当理事

聖マリアンナ医科大学医学教育文化部門 准教授

聖マリアンナ医科大学病院 看護部 副部長

川崎市立多摩病院 看護部 副部長

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 同窓生

看護専門学校(21名)

学校評価委員会 委員長 校長 鈴木昌子

委員 副校長 清水泰子

委員 2名

学校職員 17名

2) 事前配布資料

- (1) 学校関係者評価の目的
- (2) 学校関係者評価の公表
- (3) 学校評価の経緯
- (4) 2025年度 自己点検自己評価表の見方
- (5) 自己点検自己評価結果 ①総括 ②大項目別結果(現状と分析、今後の課題)

【参考資料】

- 資料1：自己点検・自己評価結果
- 資料2：教育目標評価
- 資料3：カリキュラム運営に関する評価
- 資料4：看護教員ラダー表
- 資料5：教員属性
- 資料6：臨地実習目標評価ルーブリック
- 資料7：組織図
- 資料8：看護師国家試験推移
- 資料9：18歳人口と志願者数推移
- 資料10：入学者数・卒業者数・卒業後の進路
- 資料11：学校安全計画

【その他資料】学習ガイダンス 一部抜粋

4) 議事進行

時間	内容	担当
13:00 10分	校長挨拶 ・趣旨説明、会意義の取りまとめ方、公表について ・参加者紹介	
13:10 50分	2025年度自己点検自己評価結果説明 ・本校の状況 ・分析と対策	
14:00 10分	休憩	
14:10 20分	学校内見学 教室・実習室・教務室など	
14:30 30分	意見交換 ・説目に対する質疑応答	司会：委員長 書記：委員
15:00 50分	学校関係者評価会議 ・本日の評価実施から公表までの進め方 ・評価実施 視点 1. 学校関係者評価は、客観的に行われているか 2. 自己点検自己評価の結果の内容が適切か 3. 自己点検塩評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 4. 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか	司会：井上マユミ 委員長 書記：事務
15:50	まとめ	鈴木昌子

学校関係者評価会議報告書

学校関係者評価会議は、学校の報告及び資料をもとに以下の視点をもとに全委員で検討した。

<視点>

1. 学校関係者評価は、客観的に行われているか
2. 自己点検自己評価の結果の内容が適切か
3. 自己点検塩評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
4. 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

<評価>

1. について

提示された評価方法および結果は、自己評価の項目に沿って教員が評価を実施し、数値化するとともに前年と比較することで変化と現状と分析が説明されている。教育目標評価など学生の視点からの評価を加えていることで客観性をもたせている。以上の点から、客観性は十分に確保されており評価の妥当性は明確であるとの合意が得られた。

2. 3・4の3点については提言の内容を3点に絞って議論した。

1) 教育内容、入試制度改革後の懸念と学力担保に向けた提言

18歳人口の減少に伴い看護専門学校入学生が減少していることから、入学試験の科目の大幅な変更を決定している。近隣の看護専門学校の入学生の動向および入学試験科目等の選択状況を含めた検討から、一般入学試験の科目の選定や小論文や面接を重視した入学試験に絞る必要性は理解できる。反面、安定的な学生確保対策が全体的な学生の学力低下を来さないかを懸念する意見もあがった。本会での学校側からの説明においても在校生の学力の2極化とそれに対する対策についての説明が事前に行われ、学校の予測のもと既に対策が検討されている。委員からは、対策として医学部や他校の取り組み事例として学生間のピアサポートの導入や習熟度別のクラス編成の検討も提言された。今後、入学生の確保と同時に更なる学力強化への取り組みが期待される。

2) 教員組織の活性化と研究・授業準備時間の創出

自己評価項目の「授業準備時間の不足」「研究活動の時間不足」が顕在化している事に関して提言がなされた。「授業準備時間の不足」「研究活動の時間不足」では教員にしかできない業務の明確化と業務整理、業務改善と事務部門とのタスクシェア、タスクシフトを更に進めることが挙げられた。具体的な取り組み案として、時間の確保対策では日常の中で取り入れることが難しい授業研究を学生の休暇中などを利用する仕組みづくりと外部教育機関との連携などの案が示された。「FDの高度化と自己研鑽」として「教員が互いに見合う文化」を醸成することの必要性も提案された。

更に次年度から予定されている研究費の活用や学会参加支援により「教員のモチベーションの向上」につなげることが提言された。これらをもとに教員一個人の努力だけでなく仕組みづくりを進める中で教員の教育力の向上とそれに伴う学生の学力向上が期待される。

3) 学習環境の最適化

築50年以上の年月を迎える校舎などのハード面では、校内見学に参加した委員から図書の整理とともに図書スペースなどの活用から学生が自由に使えるスペースとしての校舎設備の有効活用の提案がなされた。ソフト面では医学部の取り組みを例に海外の学生との交流、海外からの来訪者の実績などから受け入れ機会を作り学生の学習意欲の向上につなげる提案がなされた。看護師としてのキャリア形成に向けて、診療看護師や海外で勤務実績のある看護師からの授業などの機会の提供、多角的な将来像を描ける場面を創出することが提案された。学生生活をいきいきと過ごせる整備が求められる。

<総評>

看護師を目指す学生の減少に伴い、入学生の確保と同時に学生の意欲を維持させながら学力を向上させるための対策を行う。同時に、学習環境を含めた学生の学習意欲を刺激する機会の創出を求める。また、教育にあたる教員自らも授業準備時間の確保、研究時間の確保に向けた仕組みづくりを進め、教員としてモチベーションの維持と教育力の向上を期待する。そのためにも、自己点検・自己評価を継続し関係者評価会議の実施、今後予定している第三者評価会議の実現を期待する。

以上